

秋田県農業の米に次ぐりんごの生産が、いまその土台を根底から揺らしかねない深刻な問題に直面している。それが「放任園」である。つまり放任園から発生する病害虫が周辺のりんご園を侵蝕し甚だしきは廃園になることも珍しくない。最近はこうした環境悪化園が増えてきて生産者の頭痛のタネになっている。

◎りんご産地を崩壊させる放任園
本会解消に奔走

風

発行所
堀田賢逸後援会
鹿町醸翻字醸翻98-2
Tel0182-25-4011
mail:
ohotta@amber.plala.or.jp

「市報よこて」No.3にもあるように我が横手市は本県りんご生産量の約55%を占め、その面積も1013haと全県の53%を耕作している。特に平鹿町醍醐は多くのりんご栽培に係わる先駆者を輩出し、りんご栽培先進地を自負してきたが近年、放任園が出る始末で将来のりんご栽培に暗い陰を落としている。

その放任園の病害虫多発蔓延のメカニズムはこうである。生産者が最も恐れている害虫「モモシンクイガ」は老熟幼虫が土中で越冬し五月中旬地表に出て蛹(さなぎ)になる。それが6月初旬~七月中旬羽化成虫となり果実に産卵する。卵は七日~十日で孵化幼虫となつて果実の芯まで喰入する。これが果実被害で食用にはならない。



それは放任園地解消後の園地管理の問題であった。先ず放任園を整理すると草地となる。心ある人は放任园地せず最初から草地とするのだが、草刈を年五回程度やらないとカメムシ等の害虫発生を助長し、すぐ雜木も生えてくる。實際には草刈も殆んど行われていない。今後こうした園地が増加することになれば、個人や周辺の農家だけでは対応が難しいことは明白であろう。

販売では①P.Rの改善②出張販売員の派遣。消費開発では①りんごを楽しく食べる方法②りんごを健康づくりに生かす方法等々、いずれにしても結果は収入(利益)の確保であるがそれが低迷して久しく、そのまま日本農業全体にストライドする愁いもある。何もかも国まかせ県まかせでは駄目だろう。できることは自分達でやるべきである。りんごの品種改良も民間(老人クラブ等)でやつたほうがいいと思う。

いま我々はりんご栽培に情熱を傾ける若者たちのために、何なりと微力を尽くす時ではないだろうか。

苦小牧」と「早稲田実業」の37年ぶりの決勝再試合で幕を閉じたがこの「戦い」は多くの人に大きな感動を与えた。▼小泉総理が任期を前に8月15日を選んであえて参拝をしたことを含めて平和の問題を甲子園の陰に押しやつてはなるまい。▼合併前、各市町村は「非核平和都市宣言」をしていた。新横手市として恒久平和の希求の意志を改めて世界に示してほしい。

下つてこの件が七月初めに開かれた後援会報の編集委員会で話題となり、更に情報を収集し、この放任園問題に取組もうと言ふことになつた。放任園の園主は村八分的存在になつていて、地域周辺の人達と感情問題に発展し農業問題と言ふより農村間問題となつてゐる所もあつた。また裁判所の許可が必要なケースが出て社会問題化の様相も帶びてきた。当初堀田市議の手元の資料には五ヶ所が上げられていたが現場を確認し調査を進めていくうちに七ヶ所になつた。現時点での後援会の活動状況は、園主による伐採済み一件、樹園地貸借により借地者整理中が一件（三ヶ所）、来春整理約束済一件、交渉進行中二件（三ヶ所）、調査中二件となつていて、これら未済の四件を解決するのも実際には至難の

近年「持続可能な農業」と言い、循環型農業がそれを解決してくれるかのような感触込みであるが、最も基本的な「植生」の問題を忘れてはならない。

害十七種、虫害十七種（類別あり）及びて三十四種もの病害虫におびやかされることになる。
堀田市議には昨年から数箇所の放任園の苦情がよせられていたので三月市議会で一般質問を行い窮状を訴えたが市当局は斜視的答弁をろうしたのみで現在まで何ら対策も検討も加えていない。
下つてこの件が七月初めに開かれた後援会報の編集委員会で話題となり、更に情報を収集し、この放任園問題に取組もうと言うことになつた。放任園の園主は村八分的存在になつていて、地域周辺の人達と感情問題に発展し農業問題と言うより農村間

連日30度を超す暑い夏がお盆を過ぎてもまだ続いている。冷夏と日照不足が心配された夏が、それで訪れた感がする。▼この時期毎年話題になるのが平和と甲



議會報生口

堀田 賢逸の一般質問

平成18年3月議会

「りんご」の放任園について 質問しました。

横手市は合併で県内最大のりんごの生産地になりました。栽培面積、千十三ヘクタール。収穫量、一万五千三百五十二トン。

しかし、りんごの個数が安く魅力がなくなったため、片手間栽培をする事で、知識の少ない人が増えた事。高齢化で担い手が減少した事。この結果、放任園が増えている事等の問題が現れています。

方住園は「美しい日本の絵」をそこない土砂崩れを生じ病害虫の巣になるなど大きな環境問題を生じています。横手市は先人達（伊藤謙吉、藤原利三郎、田中正市）の活躍により百三十年にも及ぶりんご生産の歴史を持つています。この歴史を守り、生産活動を活発にするには、一、地元宿泊施設で「りんご」を出す等、生産地であることのPRを強化する二、高齢者などの農作業支援（長野県塩尻市）を行うのが良いと思う。

当局の回答 平鹿地域振興局では、果樹農家、農協、平鹿地域振興局農林部、果樹試験場、横手市の担当の六者が果樹遊休農地利活用検討チームを立ち上げ、遊休農地の実態把握及び再活用等の方法を検討している。具体的には一、樹園地再生型観光農園（ゆつぶる近辺）二、景観対策 三、他作物の導入（大屋梅） 四、いこいの森的再生などを検討しているとの事でした。

▼ 消火栓問題

大雪に対応できる二段階式の消火栓の設置を質問した。今年の大雪、歩道のロータリー除雪で消火栓が埋まっています。消防団や関係者がせつせと除雪をしている。二月二十二日の大雄の火事では親子二人が亡くなっている。



三地域の事業を振り返つ

上通り・下通り・石成上下水道 設置促進協議会

会長 高橋 峰男

念願であつた上水道の必要性を感じた方が68%であり如何に水道の問題に悩んでいたかが伺われました。

事業も順調に進み平成十八年三月で完成する事が出来たのも地域の方々の協力があればこそ、と感謝いたしております。尚ご報告方々水道設置促進協議会の任務を終りたいと思います。

またこの事業も上下水道、流雪溝、国

またこの事業も上下水道、流雪溝、国道拡幅等、皆様のアンケートに依るデータは下水道設置希望が74%、流雪溝設置希望が80%、国道拡幅希望が68%でありました。このデータの事実が切実さを物語っております。

通り、「下通り地域」は魔の国道とまで言われております。交通事故も7月、8月の間に、2回も車が横転し怪我をする事態を見れば、地域の一人として人命尊重の立場から今後の交通事故をゼロにする活動が地域の私達の大変な問題ではないでしょうか。

域のコミュニケーションを持ちながら行政と地域のことを考慮する時このよき事態をうながす。長い間皆様ありがとうございます。本当に長い間お世話になりました。

A detailed botanical illustration showing a branch with several large, dark, five-petaled flowers in full bloom, each with a prominent central stamen. The leaves are small and serrated.

皆様のご意見をお聞かせ下さい。

残暑お見舞い申し上げます。正月以来、半年以上の間が開いてしまいました。疎遠をお詫び申し上げます。

幾度かの編集会議の中で、これらの会報の中身をどうするのかに悩みました。8地区全体の問題を扱う事が基本であるにして、氏面に限らず、他の元氣